

みんなの健康ラジオ

『子宮筋腫』

(2018年2月8日放送)

横浜市産婦人科医会

(医)皓慈会 浅川産婦人科医院

浅川 恭行

子宮筋腫と言われたら・・・

1. 子宮筋腫という病気を理解する
2. どうして子宮を温存する治療が望まれる？
3. たくさんの選択肢から、治療法を選ぶのはあなた
4. 治療法を選ぶ時に気をつけたいこと
5. 全摘では本当にいけないの？

子宮筋腫という病気を理解する1

- 成人女性の3～4人に1人が有しているといわれる良性腫瘍。
- 通常30～40歳代に発見される。
- その後大きさが変化しない場合もあるが、増大していく場合もある。
- 閉経後は(エストロゲンというホルモンが減少していくため)自然と縮小していく。
- 子宮筋腫を持っている方のうち、大半の方(80～90%)は、これによる症状や問題が出現せず、治療を要しない。一方、日常生活に支障が生じて何らかの治療が必要となるのは、少数(10～20%)の方。
- 良性腫瘍: 定期的な検診のもとでの経過観察や、適切な治療を行えば、日常生活に支障をきたすことはまずない。不安になりすぎないように。

子宮筋腫という病気を理解する2

- 子宮筋腫が見つかったらまずすることは？
 - 本当に筋腫であることの確認や、どのような筋腫であるかを確認するために、超音波検査やMRI検査で詳しく調べる。
 - 子宮筋腫に似た病気(子宮腺筋症や子宮肉腫)との鑑別にはMRIが大きな判断材料。
- 妊娠や出産の妨げになることがある
- 筋腫が大きくなると不快な症状が現れることがある
 - 過多月経、貧血、周囲臓器圧迫症状、腹部腫瘤感・・・
- 治療法の選択はじっくりと様々な要素を考えて
 - 将来妊娠を望むかどうか、手術の負担を最小限にしたいか・・・
 - 希望する治療法で治療が可能かどうか・・・
 - それぞれの治療法には、メリット、デメリットがある。

どうして子宮を温存する治療が望まれる？

- 温存療法が求められる背景にあるもの
 - 子宮筋腫は35～40歳ごろ、圧倒的に増加してくる。
 - 以前に治療法が限られていた時代→子宮筋腫の手術は子宮全摘。
 - 子宮筋腫と診断される女性の多くが、すでに子どもを産み上げていた。
 - 女性の社会進出→結婚だけでなく仕事も充実させたい。
 - 晩婚化(未婚、未妊、未産)
 - 30～40代で筋腫の治療として子宮全摘は受け入れられない。
 - ライフスタイルの変化を反映した必然的な主張。
- 子宮温存を願う人:いま子供が欲しい人、将来的に欲しいと思っている人:しかし妊娠を望まない女性にも子宮を残したいと願う人は多数。
- 疑問や要望をはっきりと口にすることができるようになってきた。

増えた選択肢から治療法を選ぶのはあなた自身

- 治療法が「開腹手術」か「経過観察」しかなかった以前と比べ、現在は様々な手術が行われるようになった。
 - 治療方法の正確な情報を得る。
 - 自分のライフスタイルに合った治療法を選択する。
-
- 開腹、腔式、腹腔鏡下、子宮鏡下・・・子宮全摘、筋腫核出
 - 子宮動脈塞栓術(UAE)、集束超音波手術(FUS)
マイクロ波子宮内膜焼灼術(MEA)



治療法を選ぶ時に気をつけたいこと

- 治療法のメリット、デメリットをしっかりと見極める
 - 例 開腹手術はいかなる子宮筋腫でも対応可能であるメリット。
傷が大きく、手術侵襲が大きいデメリットがある。
- 希望する治療を受けるにはタイミングも重要
 - 子宮筋腫の根本的な治療は手術で筋腫を取り除くことであるが、小さなものは経過観察も可能である。しかし、経過観察している間に大きくなってきたりする……
 - 例 腹腔鏡下手術の場合、ある程度の大きさを超えると開腹手術でしか対応できなくなる。
- 新しい治療を行える施設は限定される
 - 医療機関を選ぶことも治療を受ける上では重要な要素になる。



全摘では本当にいけないの？ 「全摘」を一方向的に罪悪視するのも問題

- 「全摘」か「温存」かは、誰でも迷う・・・
- 子宮を温存する場合には、再発の可能性を考えて
 - 子宮筋腫を「完全に治す」には子宮を摘出する「全摘」以外にない。
 - つまり・・・子宮を残す場合には再発の可能性がある。
 - 温存を選ぶ場合は、将来また手術を受けることになってもいいかどうかをよく考えて選択する(特に「妊娠の希望はないが子宮は取りたくない」というような場合)
- 「全摘」が最善の治療という場合もある
 - 筋腫の状態によっては全摘するのが最善と思われる場合がある。
 - それでも温存を希望する場合には、医師はできる限りのことをして子宮を残そうとする。
 - 医療・治療は体の異常を取り除き、正常に戻すために行う。
 - 時と場合によって、柔軟に、冷静に検討してもらいたい。

子宮筋腫の早期発見と検査

- どうすれば子宮筋腫に気づくことができるか
- 子宮筋腫になるとどのような症状があらわれるか
- 病院での検査にはどのようなものがあるか
- 問診ではどのようなことを聞かれるか
- 内診ではどのようなことをするのか
- 超音波検査では何がわかるか
- MRI検査では何がわかるか
- 他にどのような検査があるか

どうすれば子宮筋腫に気づくことができるか

- 成熟期の女性にできやすい良性の腫瘍が子宮筋腫である
 - 成人女性の20～30%は子宮筋腫を持っている。
- 筋腫は発見されるまで気づかない人がほとんど
 - 最近の受診動機で最も多いのは「健診で指摘された」
- 症状で子宮筋腫に気づくこともある
 - 過多月経、不妊、圧迫症状、腹部腫瘤感。